

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

銅像山

昭和38年(1963年)



【写真2】

「広報うしく」31号
(昭和35年発行)より



【写真1】

【写真1】は、昭和38年に撮影されたもので、子どもたちの奥に銅像が見えます。これは、母親を背負う孝子弥作(※)の銅像です【写真2】。元貴族院議員で実業家の高柳淳之助氏は、孝子弥作像を遠山町の高台につくり、この地を銅像山と名づけました。銅像山という名前は現在も残されており、国道6号線にある「銅像山踏切北」信号の標識で見ることができます。
※江戸時代、常陸国玉造浜村の弥作は親孝行で有名であり、明治天皇の命でつくられた道徳教育振興のための『幼学綱要』にその事跡が掲載されました。



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・東部地区の写真)を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課

☎内線2524

結実期の樹形およびヤマグワの果実: 田宮町田んぼの土手
平成23年5月31日撮影



第31回

ヤマグワ

クワ科クワ属の落葉広葉樹の小高木で全国に分布し、市内では林縁や雑木林などに自生します。かつて日本の産業を支えた養蚕業のカイコの餌として改良を重ねて作られたマグワの栽培品種の親の一つです。葉身は卵状広



ヤマグワの果実



マグワの果実

マグワの果実:
新地町畑の縁
平成23年6月6日撮影

楕円形で長さ6〜14cm、表面はざらつき、葉の切れ込みは多様です。普通は雌雄異株ですが、まれに同株のものもあります。花期は4〜5月で、雄花序は長さ約2cm、雌花序は4〜6mm、小さな果実が集まって集合果を作ります。マグワとの違いは残存花柱が長いこと(下左の写真)です。果実は熟すと赤色から紫黒色に変わり食べられます。昔はこの季節、実を食べて口中が真っ黒な子をよく見かけたものです。
※牛久の里山樹木ハンドブック53ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで
【資料提供】NPO法人うしく里山会(文章: 秋山侃、写真: 渡辺泰)

文芸さろん | 文月 |

夕焼の三日月雲を舟として
由来説く巫女に寄り添う羽抜鶏
今度いつ会いますか 新茶いれ
あかときの空から響くほととぎす
囀りは親の役目で子をまもる

青梅の熟れる頃なり着け方を
友と語り夏の手仕事

離れた梢(こぼれ)気持ち爽やか

草葉

木村さん

秋穂

淑子

進の介

和多田さん

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など

【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1

「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512

E-mail: kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp

【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)